

# 「子どもといっしょにおうちで参考館を楽しもう！」プロジェクト

## 「おうちでたのしむ参考館」

みなさん、こんにちは。

学校がお休みになって、おうちですごすことが多くなりましたね。

参考館に来て、ほんものを見てもらいたいのですが、いまはお休みしています。

それで、おうちで参考館のしりょうを、楽しんでもらおうとかがえました。

参考館は、ことし90さいのおたんじょう日をむかえます。

それをきねんして、とくべつなてらん会をひらきます(いまはお休み中)。

そのとくべつてん「スポーツの歴史と文化」のしりょうから、クイズを出します。

いくつわかるかな？

おうちのみなさんといっしょに、かがえてくださいね。

そして、すきなときに外へ出られるようになったら、ここにあるしりょうを見るために

参考館にぜひ来てくださいね！ まっています！



## 特別展「スポーツの歴史と文化」子どもクイズ 【その1】

1) 「蹴鞠」は古くからある「日本のサッカー」のようなボールゲームです。  
その鞠(ボール)は動物の革でつくられています。どの動物の革でしょうか。



まり  
鞠

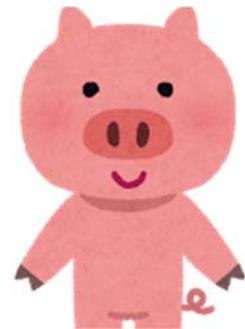
① しか



② 牛



③ 豚



蹴鞠は、8人で鞠を地面に落とさないように蹴りあうパスゲームで、勝ち負けはありません。平安時代の貴族が楽しみ、江戸時代には町人や百姓にも広がるようになつて名手ならぬ名足(本当にそう言います(^▽^))が登場しました。鞠は丸く切った鹿革2枚にいくつもの切り目を入れ、その2枚の切り目を合わせたところに馬の皮を通してつくります。特別な技術が必要なので「鞠師」という専門の職人がいました。鹿の革はやわらかく、はずんで蹴りやすいそうです。蹴鞠にむちゅうになって、はたらかない人もいたので、鞠が馬と鹿の革でつくられることから「馬鹿」のことばのもとになったともいわれています。



貴族たちが蹴鞠をたのしんでいます



こたえ ① 鹿

じゅうどうぎ    しろいろ  
2) 柔道着が白色なのは、だれのかんがえをあらわしているのでしょうか。



① ぶし 武士



② にんじゃ 忍者



③ ひめ 姫





じゅうどうぎ ぞう  
柔道着 (個人蔵)

わたしたちが「柔道」とよぶのは 1882年に嘉納治五郎によってはじめられたもので  
す。もとのかたちは武士の技「組みうち」です。武士の戦い方は、敵とはなれた弓矢  
の戦いにはじまり、そのあと近づいて槍や刀をつかいます。槍や刀が折れたら、  
素手で敵を組み伏せるしかありません。これが「組みうち」で、この技が組み合わさつ  
て「柔術」となりました。嘉納は「柔術」のあぶない技をなくし、心身をきたえる方法  
としてととのえたのです。武士は戦場に出るとき、鎧の下に白い着物を身につけま  
す。それは死ぬ気で戦場に行くという気もちをあらわすものです。また、白はけがれ  
のない清らかさをしめします。どんな色にもそまります。それはすべてを受け入れるス  
ケールの大きさをあらわすものでもあります。1997年には審判(どちらが勝ったか)  
をつけやすいという意見から、世界でカラー柔道着がみとめられるようになりました。



3) むかし、<sup>にほん</sup>日本ですもうがおこなわれていた<sup>ひ</sup>日はいつでしょうか。



① <sup>がんにつ</sup>元日 (1月1日)



② <sup>たんど</sup>端午 (5月5日)



③ <sup>たなばた</sup>七夕 (7月7日)



うどはりこりきし  
宇土張子 力士

いまからおよそ 1300年前、奈良時代の天平六年七月七日に聖武天皇が日本中から力持ちを集めてすもうをとらせました。これを「相撲節会」といいます。「節会」とは季節のかわりめに天皇がひらく会です。天皇はなぜ七夕の日にすもうをとらせただでしょうか。

それは「日本ではじめてすもうをしたのが七月七日」といわれているからです。垂仁天皇が大和国(いまの奈良)の当麻蹶速と出雲国(いまの島根)の野見宿禰という力じまんの二人に力くらべをさせ、勝った野見宿禰を家来にしたのがすもうのはじまりとされており、それが七夕の日だったのです。

穴師坐兵主神社(奈良県桜井市穴師)や、腰折田(奈良県香芝市磯壁)が二人がすもうをとった場所と伝わっています。



こたえ ③七夕(7月7日)

4) すも<sup>つゆはら</sup>うの「<sup>よこづな</sup>露<sup>りきし</sup>払い」(横綱につきそう力士)のルーツは何でしょう。





よこづなでるくにけしやう つゆはらいやう  
横綱照國化粧まわしのうち 露払い用

力士のトップは横綱です。横綱が「露払い」の力士と「太刀持ち」の力士をしたがえて「土俵入り」をおこないます。むかしから建物<sup>たてももの</sup>をたてる<sup>ちか</sup>ときに、地下<sup>わる</sup>にひそむ悪いものをふみつけておさえる地固め式<sup>じがた しき</sup>をおこないました。この地固め式<sup>じがた しき</sup>に出て「しこ」をふむのが横綱です。横綱は特別な力<sup>ちから</sup>をもつスーパーマンとかがえられていたからです。鞠<sup>まり</sup>を蹴<sup>け</sup>りあう蹴鞠<sup>けまり</sup>では、プレイする鞠場<sup>まりば</sup>のすみ<sup>き</sup>に木<sup>う</sup>を植<sup>ま</sup>えます。鞠<sup>まり</sup>がその木<sup>き</sup>にあたると、たま<sup>つゆ</sup>った露<sup>お</sup>が落<sup>お</sup>ちてぬれることがありました。身分<sup>みぶん</sup>の高い人<sup>たか</sup>をぬらしてはいけないということで、はじめに鞠<sup>まり</sup>をわざと木<sup>き</sup>にあてて露<sup>つゆ</sup>を落<sup>お</sup>としておきます。このことから、えらい人<sup>さき</sup>より先<sup>すす</sup>に進<sup>む</sup>んで悪いもの<sup>わる</sup>をとりのぞくことを「露払い<sup>つゆはらい</sup>」というようになりました。化粧まわし<sup>けしやう</sup>は、本場所<sup>ほんばしやう</sup>用のまわし「取りまわし<sup>と</sup>」の前<sup>まえ</sup>だれが、取<sup>と</sup>り組<sup>く</sup>み中<sup>ちゆう</sup>にじゃまになることから、土俵入り<sup>どひやうい</sup>だけに使う<sup>つか</sup>まわしとして生ま<sup>う</sup>れました。江戸時代<sup>えどじだい</sup>に大名<sup>だいみやう</sup>が自分<sup>じぶん</sup>の力士<sup>りきし</sup>にテラックスな「取りまわし<sup>と</sup>」をあ<sup>と</sup>たえ、取<sup>と</sup>り組<sup>く</sup>みにく<sup>く</sup>な<sup>く</sup>な<sup>く</sup>ったことから区<sup>く</sup>別<sup>べつ</sup>されるよう<sup>くべつ</sup>になりました。



こたえ ② 蹴鞠<sup>けまり</sup>